

# 第7期多摩区地域福祉計画（案） 概要版

---

～ 多様な主体と多世代がつながる支え合いのまち多摩区 ～

令和6(2024)年度～令和8(2026)年度

# 地域福祉計画

川崎市では社会福祉法に基づき、川崎市地域福祉計画及び区ごとの特性に応じた7区の地域福祉計画を策定、計画の取組を推進しています。そして、「川崎市地域包括ケアシステム推進ビジョン」や高齢・障がい・子ども・健康づくり等の関連計画とも連携を図りながら、地域包括ケアシステムの構築につなげています。

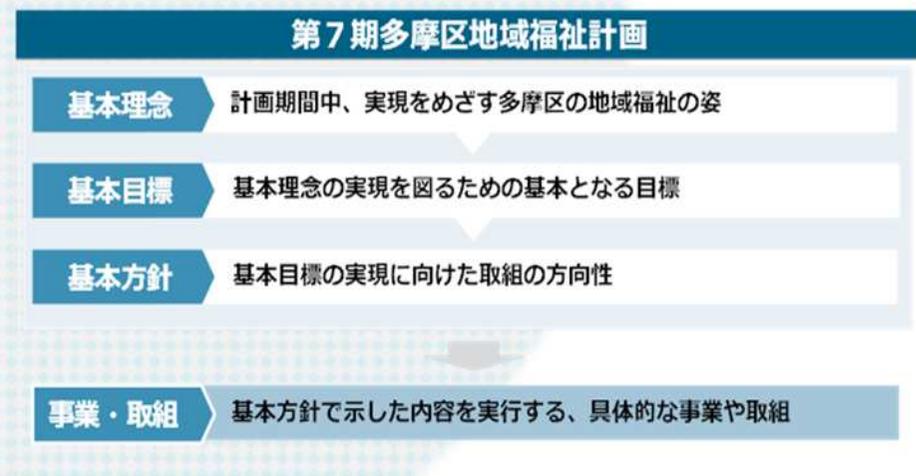
多摩区は、令和7（2025）年までに65歳以上の人口の割合が21%を超える超高齢社会が到来すると見込まれています。この超高齢社会の到来に伴う様々な課題に対応するには、これまでの制度の枠組でいわれている「支える側」

「支えられる側」という従来の関係を超越して、人と人、人と社会がつながり、一人ひとりが生きがいや役割を持ち、助け合いながら暮らしていくことのできる地域や社会を創っていく必要があります。

多摩区地域福祉計画は、こうした地域や社会を創るための取組をまとめたものであり、地域の人々がお互いに支え合いながら、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるようなまちづくりをめざして、多摩区に関わるすべての人が協力しながら進めていく計画になります。

「第7期多摩区地域福祉計画」は、令和6（2024）年度から令和8（2026）年度の3年間を計画期間とし、区民の意識や地域福祉活動に大きな変化をもたらした新型コロナウイルス感染症の影響を受けとめつつ、区民向けの地域福祉実態調査の結果や、区内で活動している地域福祉活動グループ、町内会・自治会、民生委員児童委員、医療・介護・教育に関わる団体へのヒアリング等、多くの住民の声を聞きながら作成してきました。

計画は、以下のような構成になっています。



# 第7期多摩区地域福祉計画案 目次

★は、この資料で紹介している部分です。

## その1 たまくの計画（第7期多摩区地域福祉計画）

- ★ 計画の期間、基本理念、計画の体系図
- ★ 基本目標、基本方針、事業・取組  
地域福祉計画の進め方

## その2 たまくを知る

- 多摩区のプロフィール
- ★ 統計データから見る多摩区  
人口/子どもの状況/高齢者の状況/障がい者の状況/  
生活保護の状況/地域福祉の状況  
多摩区をもっと細かく見てみる（地区の概況）  
登戸/菅/中野島/稲田/生田



## その3 たまくの福祉を調べる

- ★ 第6回川崎市地域福祉実態調査結果  
地域のこと/いつまでも安心して暮らすために  
人生の最終段階を考える/地域で活動に参加すること  
地域福祉の推進に向けて
- ★ 第6期多摩区地域福祉計画を振り返る

## 資料編

- 各事業・取組及び担当課一覧
- 各事業・取組担当課連絡先一覧
- 第7期多摩区地域福祉計画の策定経過
- 多摩区支え合いのまちづくり推進会議運営要綱
- 多摩区支え合いのまちづくり推進会議委員名簿
- 多摩区町丁別 地区組織
- 各種相談窓口
- 表紙絵・扉絵・挿絵について
- 川崎市地域福祉計画概要

## その1 たまくの計画（第7期計画の計画期間）

### 第7期計画の計画期間



- 第7期計画は、令和6（2024）年度を初年度として、令和8（2026）年度を目標年次とする**3年計画**とします。

## その1 たまくの計画（基本理念）

---

### 基本理念

#### 多様な主体と多世代がつながる支え合いのまち多摩区

多摩区は自然が豊富で居住環境が良いこともあり、区民の総合的な生活環境の満足度は高くなっています。また、町内会・自治会等の活動や自主的な地域活動も活発に行われています。

個人や家庭の生活課題が複雑化する中、支援を必要とする区民に、ご近所や福祉関係者等が気づき、行政や関係機関が積極的に連携して解決につなげる等、多様な主体が連携していく必要があります。

また、様々な団体等で担い手不足が課題となっており、今まで活動を支えてきた世代に加えて、若い世代の地域参加が不可欠となっています。多世代がつながり、全ての世代の人が自分でできることは自分で行うとともに、お互いに支え合うことが住み慣れた地域や自らが望む場で安心して暮らし続けることができる地域の実現につながります。

地域で暮らす全ての人たちが交流し、つながり合い、誰もが支え合い自分らしく活躍できる地域共生社会の実現をめざします。

# その1 たまくの計画（基本理念、基本目標、基本方針）

## 基本理念 ▶ 多様な主体と多世代がつながる支え合いのまち多摩区

### 基本目標1

区民一人ひとりが  
参加する地域づくり

重点  
項目

**基本方針  
1-1** 理解と共感を広げる情報発信  
と場の創出

**基本方針  
1-2** 地域活動の担い手育成

**基本方針  
1-3** 地域活動への支援

### 基本目標2

多世代交流で  
つながる地域づくり

重点  
項目

**基本方針  
2-1** 誰もが気軽に参加できる  
活動・交流の機会づくり

**基本方針  
2-2** 身近な地域での支え合い活動  
の推進

### 基本目標3

見守り・支え合いの  
ネットワークづくり

重点  
項目

**基本方針  
3-1** 支援が必要な人への  
見守り・支え合いの推進

**基本方針  
3-2** 区民・団体・民間・行政の  
連携

## その1 たまくの計画（基本目標1）

---



### 基本目標1

# 〔区民一人ひとりが 参加する地域づくり〕

より多くの区民が、自助・互助の活動に取り組めるように、様々な形で情報発信していきます。

また、地域活動の新たな担い手の育成、住民主体で行われている地域活動への支援を通して、活動を活性化し、支えていきます。





基本目標2

# 〔多世代交流で つながる地域づくり〕

同じ地域に暮らす住民同士が、年齢や背景の違いを超えて交流ができるよう、身近な地域でのつながりづくりを進めていきます。

また、交流を通じて、住民同士が支え合い自分らしく活躍できる地域づくりをめざします。

# その1 たまくの計画（基本目標2 主な取組）

基本目標2  
こう進める!

## 基本目標2

【多世代交流でつながる地域づくり】を進める2つの基本方針

### 1 誰もが気軽に参加できる活動・交流の機会づくり

住民同士が地域の中で出会い、あいさつし合えるようなゆるやかなつながりづくりをめざし、誰もが気軽に参加できる活動・交流の機会づくりの取組を推進します。

重点  
項目

### 2 身近な地域での支え合い活動の推進

身近な地域での交流や支え合いの活動を、住民や事業者、関係機関、団体と共に推進します。

## 主な事業・取組

●子育てサロン・子育てひろば



●たまたま子育てまつり



●障がい者と地域住民の交流の場  
「障がい者社会参加学習活動」



●多摩区スポーツフェスタ



●地域包括ケアシステムの推進



●生田地区コミュニティ  
推進事業





基本目標3

# 【見守り・支え合いの ネットワークづくり】

一つの制度・分野では解決できない相談を受け止め、包括的な視点で支援を継続していくために、区民・団体・民間・行政の更なる連携を図り、情報共有・連携体制を充実させていきます。

# その1 たまくの計画（基本目標3 主な取組）

基本目標3  
こう進める！

## 基本目標3

【見守り・支え合いのネットワークづくり】を進める2つの基本方針

重点項目

### 1 支援が必要な人への見守り・支え合いの推進

一人ひとりの困りごとを見逃さず、必要な情報の提供を行い、サービスにつなげることができるよう、気軽に相談できる体制の充実を図ります。また、区民や民間事業者と連携して、地域での見守り活動を推進します。

### 2 区民・団体・民間・行政の連携

区民・団体・民間・行政が一体となって協力・連携できるよう支援体制の充実を図ります。また、制度・分野の枠にとられない情報共有等の仕組みづくりに取り組みます。

## 主な事業・取組

### ●新生児訪問・こんにちは赤ちゃん訪問



### ●高齢者・障がい者相談支援の実施



### ●川崎市地域見守りネットワーク事業



### ●多摩区こども総合支援連携会議



### ●地域ケア会議

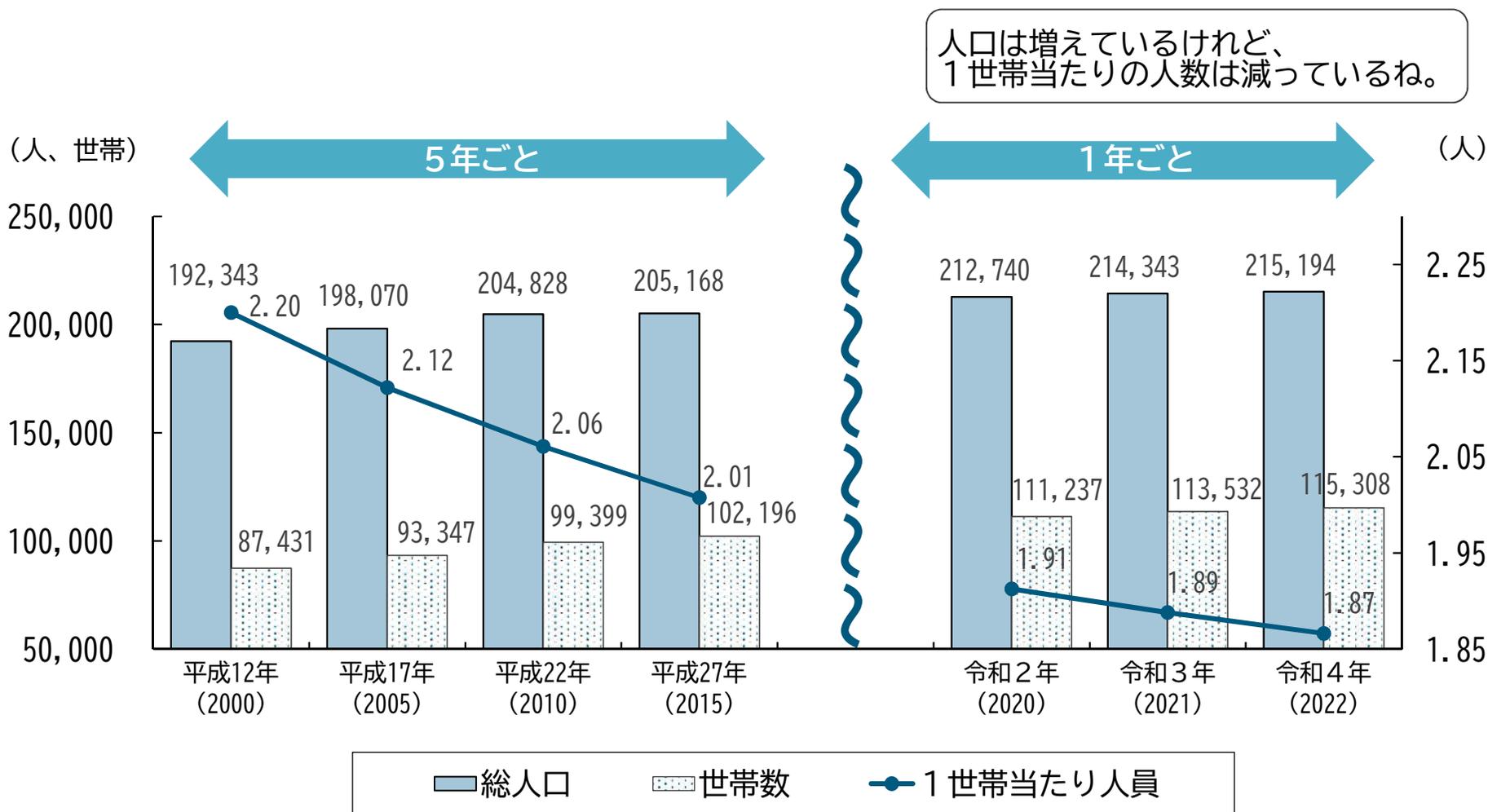


### ●多摩区健康づくり推進連絡会議



## その2 たまくを知る (多摩区の総人口と世帯数の推移)

### 人口・世帯数は増加傾向、1世帯あたりの人員は減少傾向

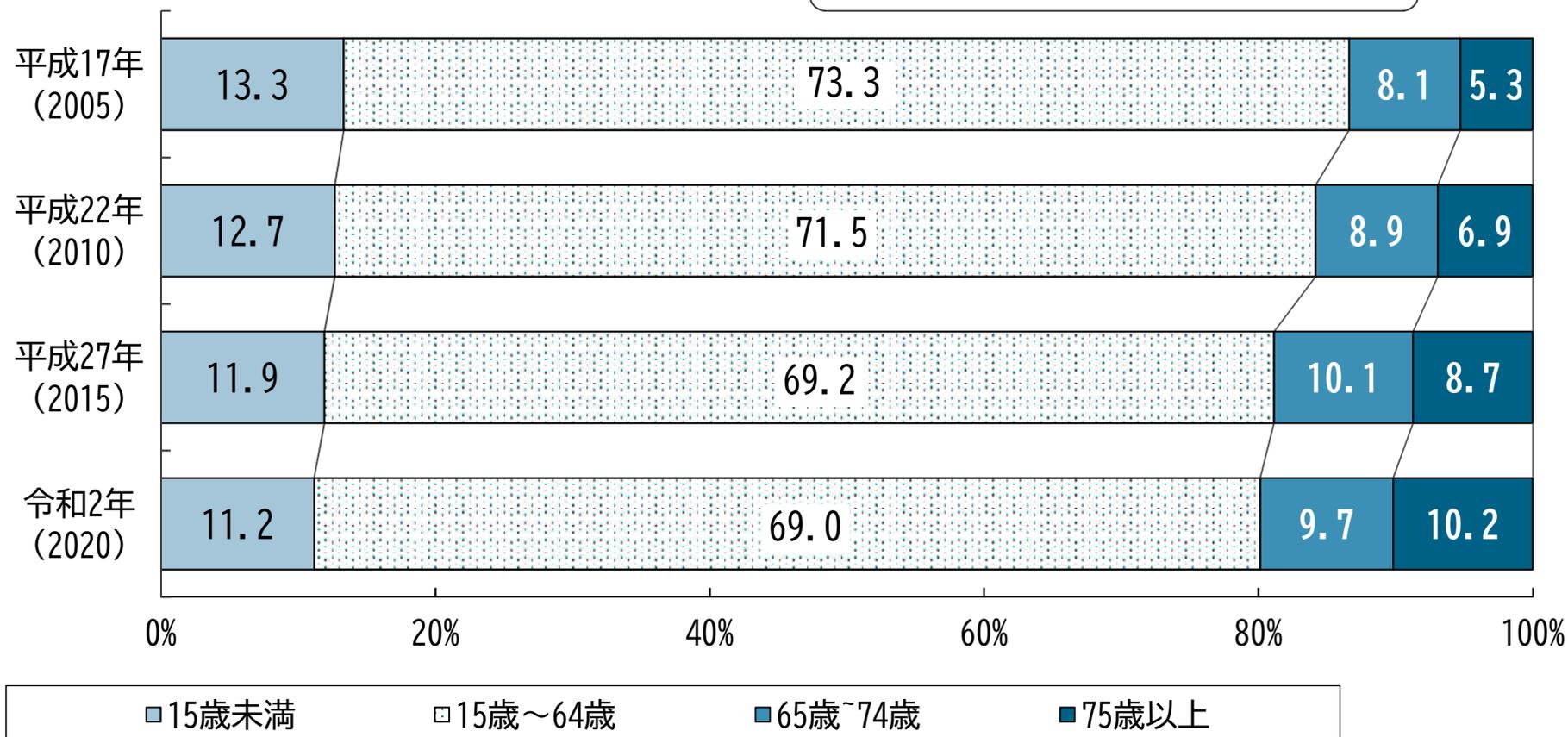


資料：川崎市統計情報「町丁別世帯数・人口」  
(各年9月末日現在)

## その2 たまくを知る (多摩区の年齢区分別人口割合の推移)

### 年少人口は減少し、高齢者人口の割合が増加傾向

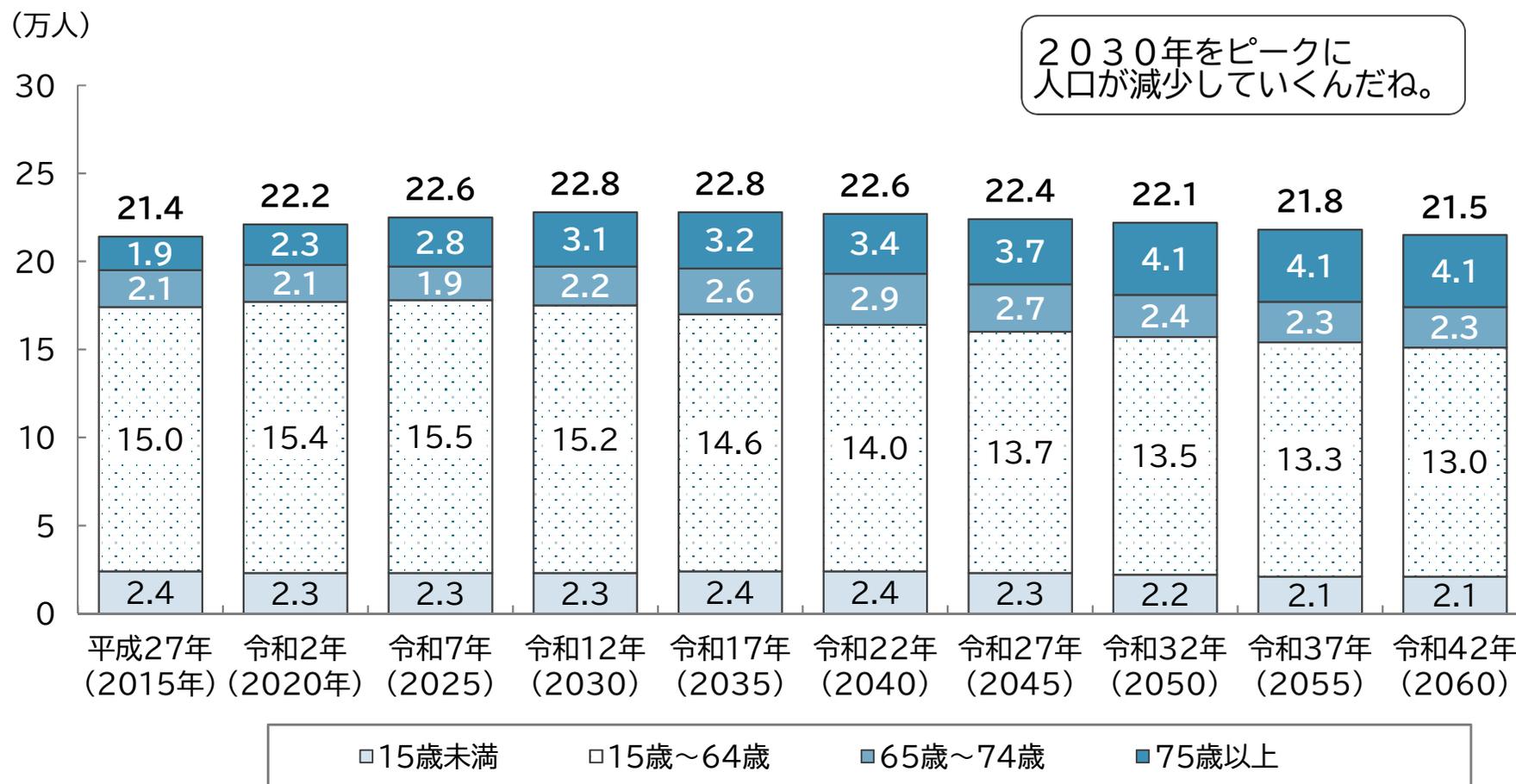
高齢者の割合が増えているんだね。  
今は5人に1人が65歳以上なんだね!!



資料：川崎市の統計情報「町丁別年齢別人口」  
(各年9月末日現在)

## その2 たまくを知る（多摩区の年齢区分別将来人口推計）

# 総人口は2030年がピーク、75歳以上人口が大幅に増加

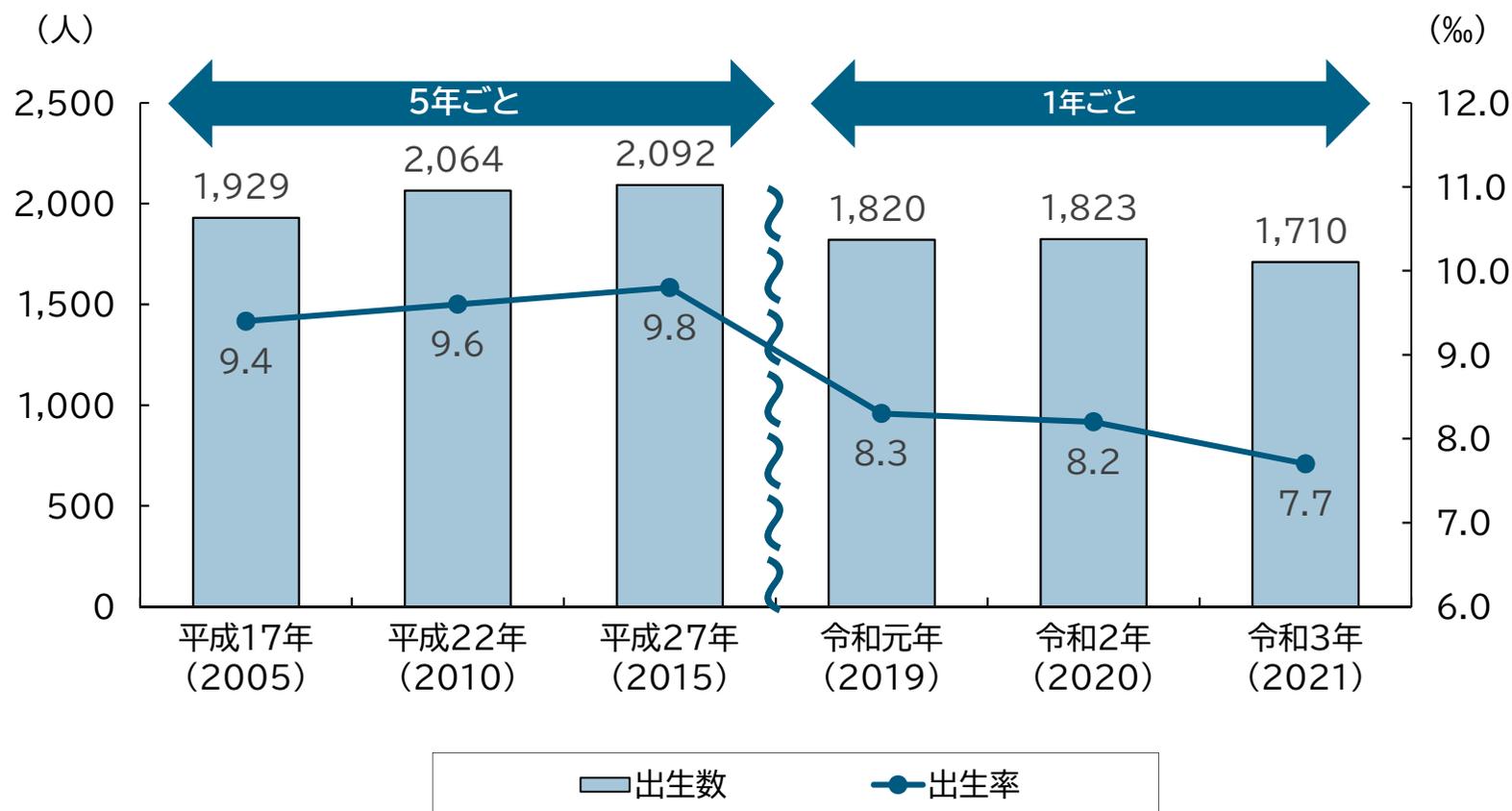


資料：「川崎市総合計画第3期実施計画の策定に向けた将来人口推計（更新版）」（各年10月1日現在）  
 令和4年2月 川崎市総務企画局

## その2 たまくを知る (多摩区の出生数・出生率の推移)

### 出生率は平成27年から低下傾向

出生数も出生率も下がっているね。

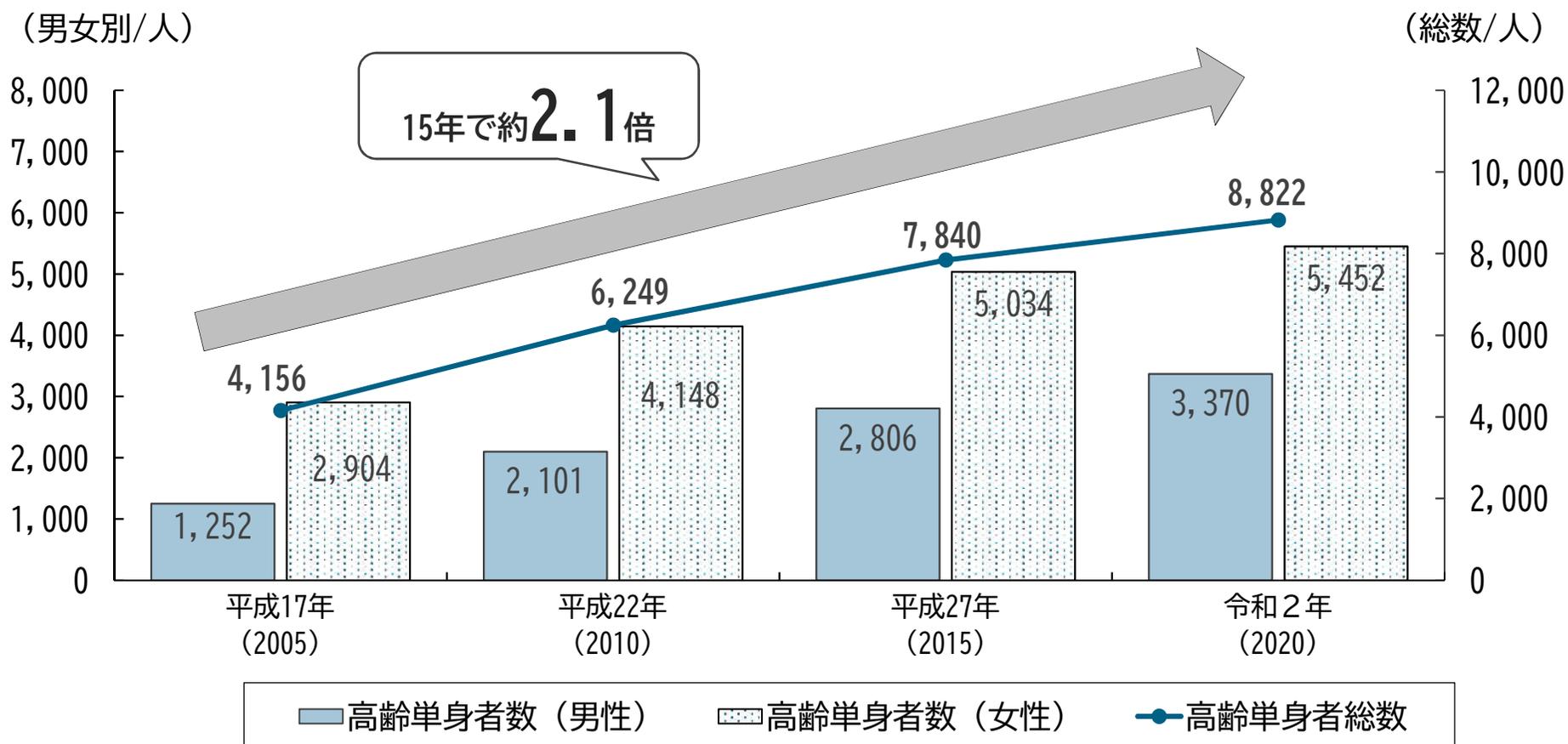


資料:川崎市統計書(各年次)

## その2 たまくを知る (多摩区のひとり暮らし高齢者数の推移)

### ひとり暮らし高齢者は男女とも増加傾向

ひとり暮らしの高齢者が  
増えているね。

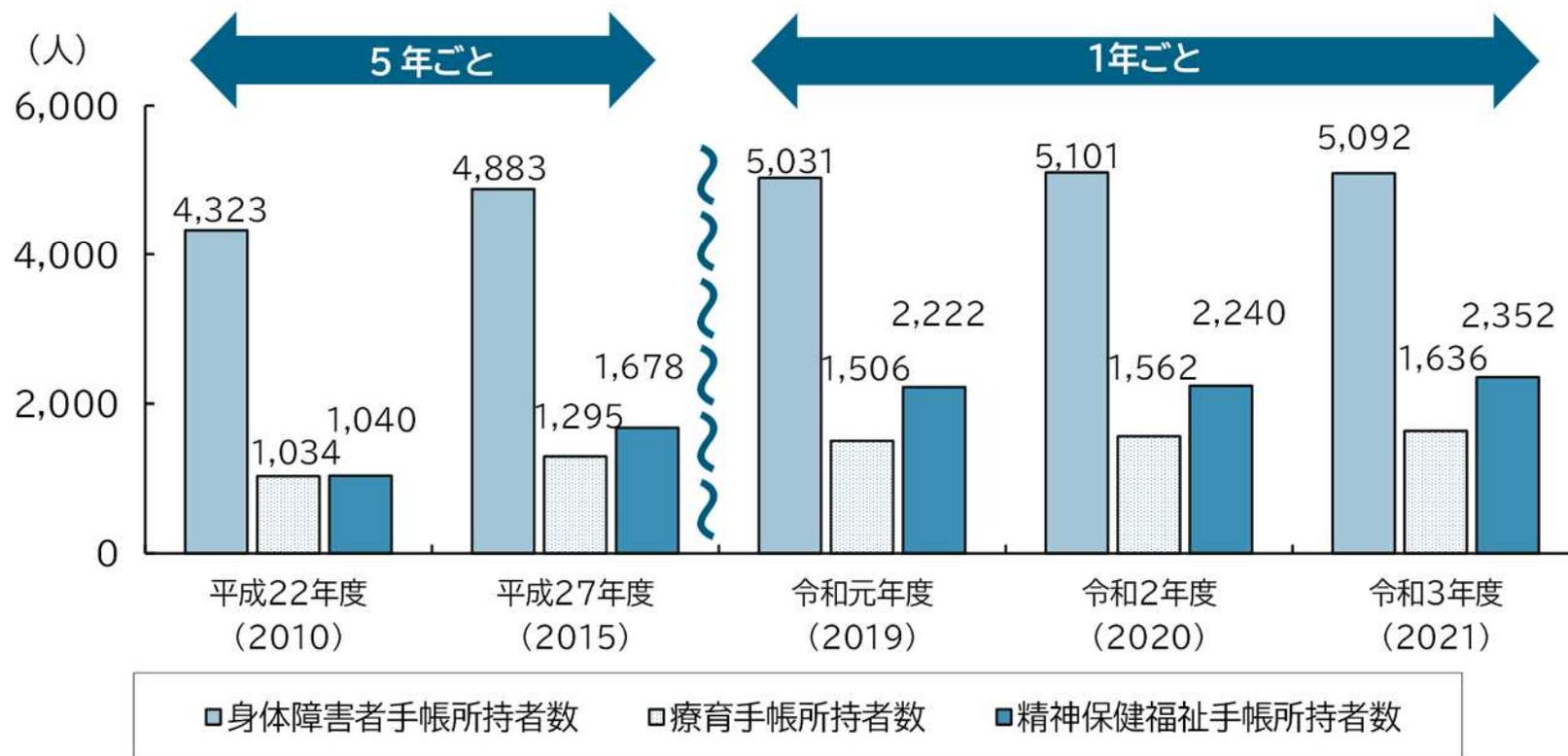


資料：国勢調査 (各年10月1日現在)

## その2 たまくを知る（多摩区の障害者手帳所持者数の推移）

### 障害者手帳所持者数はいずれも微増傾向

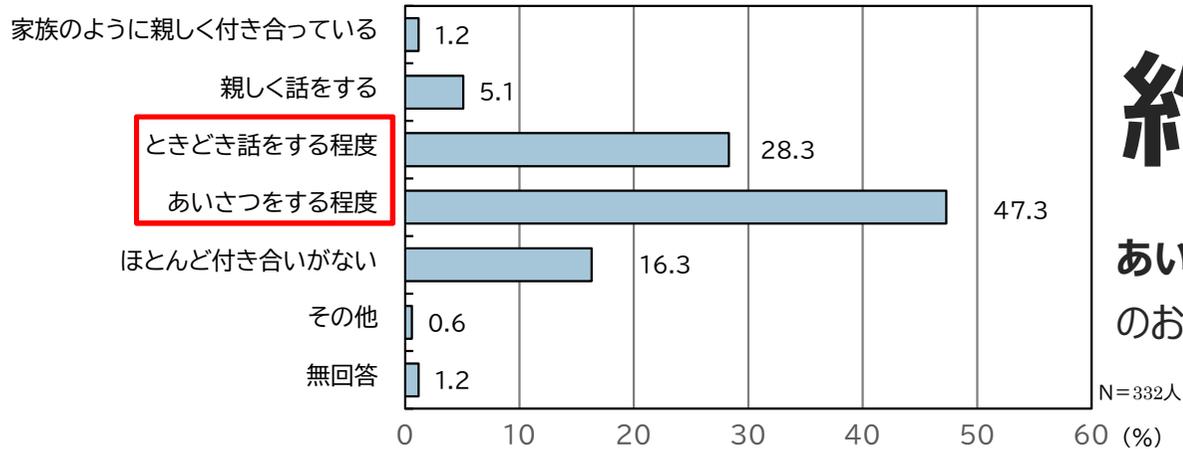
なかでも療育手帳所持者、精神保健福祉手帳所持者の方が増えているね。



資料：川崎市健康福祉年報（各年度末）

### その3 たまくの福祉を調べる（地域とのつながりについて聞きました）

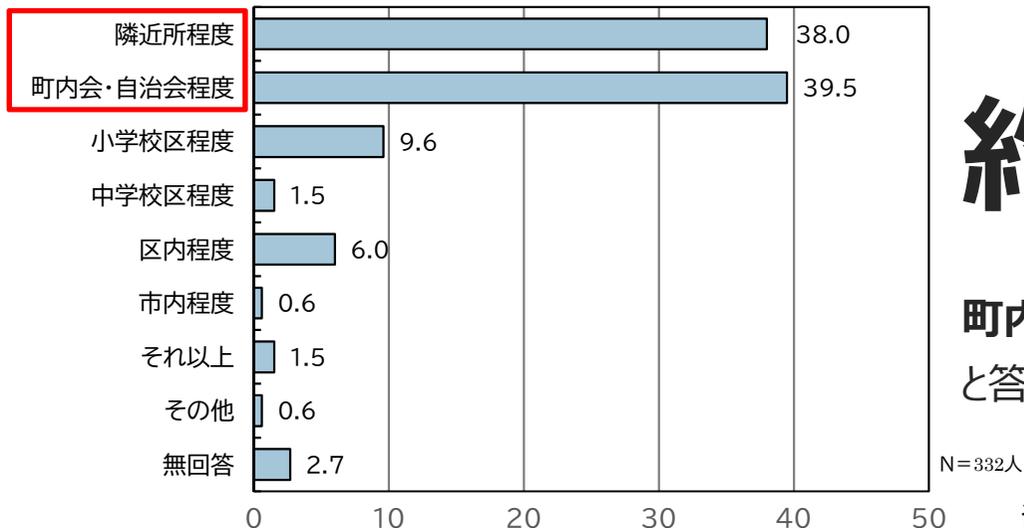
#### Q ご近所の方とは、普段どの程度のお付き合い？



**約8割** が

あいさつをする程度、ときどき話をする程度のお付き合いと答えている。

#### Q 助け合いができる地域ってどれくらい？



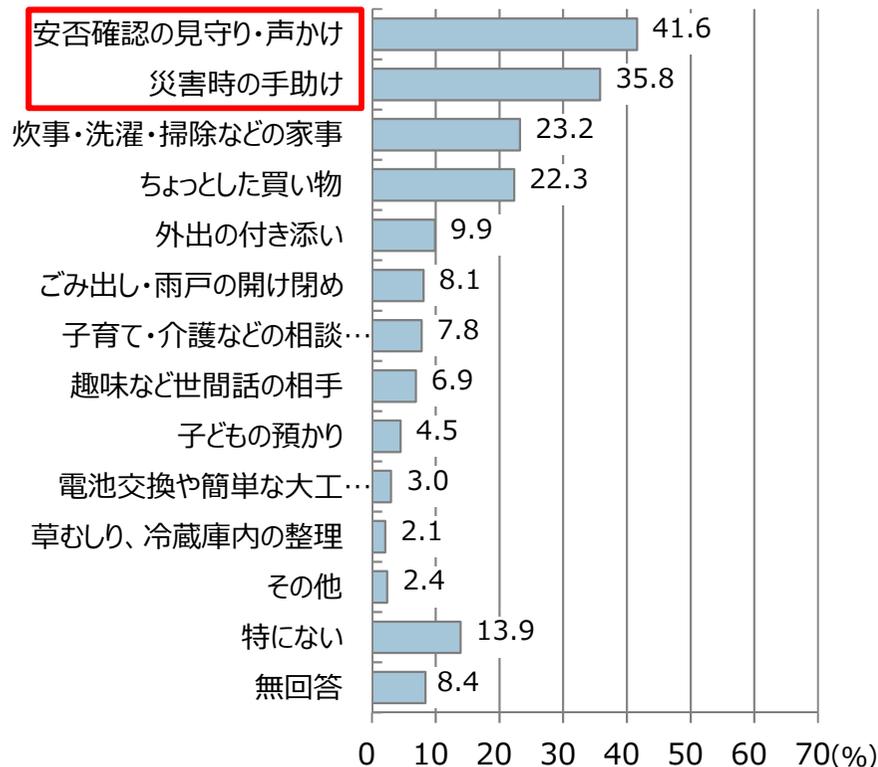
**約8割** が

町内会・自治会程度、隣近所程度と答えている。

資料：両グラフともに、令和4年度地域福祉実態調査から多摩区分を抽出して作成

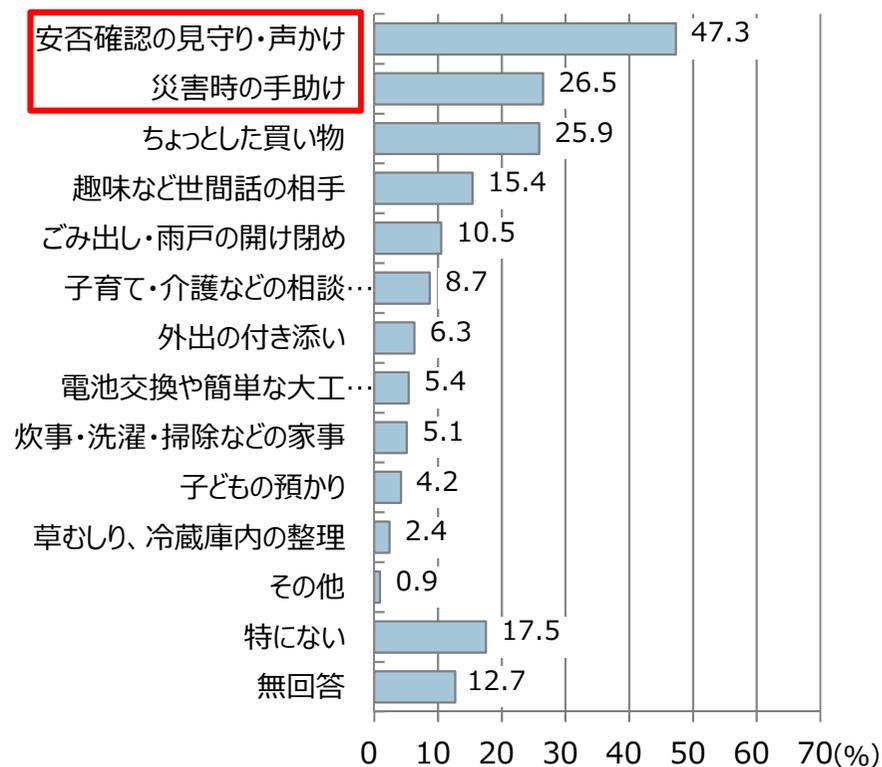
### その3 たまくの福祉を調べる（地域に求めたいこと、自分ができることを聞きました）

Q どんな手助けを地域の人に求めたい？



見守りや声かけ、手助けを求めているね。

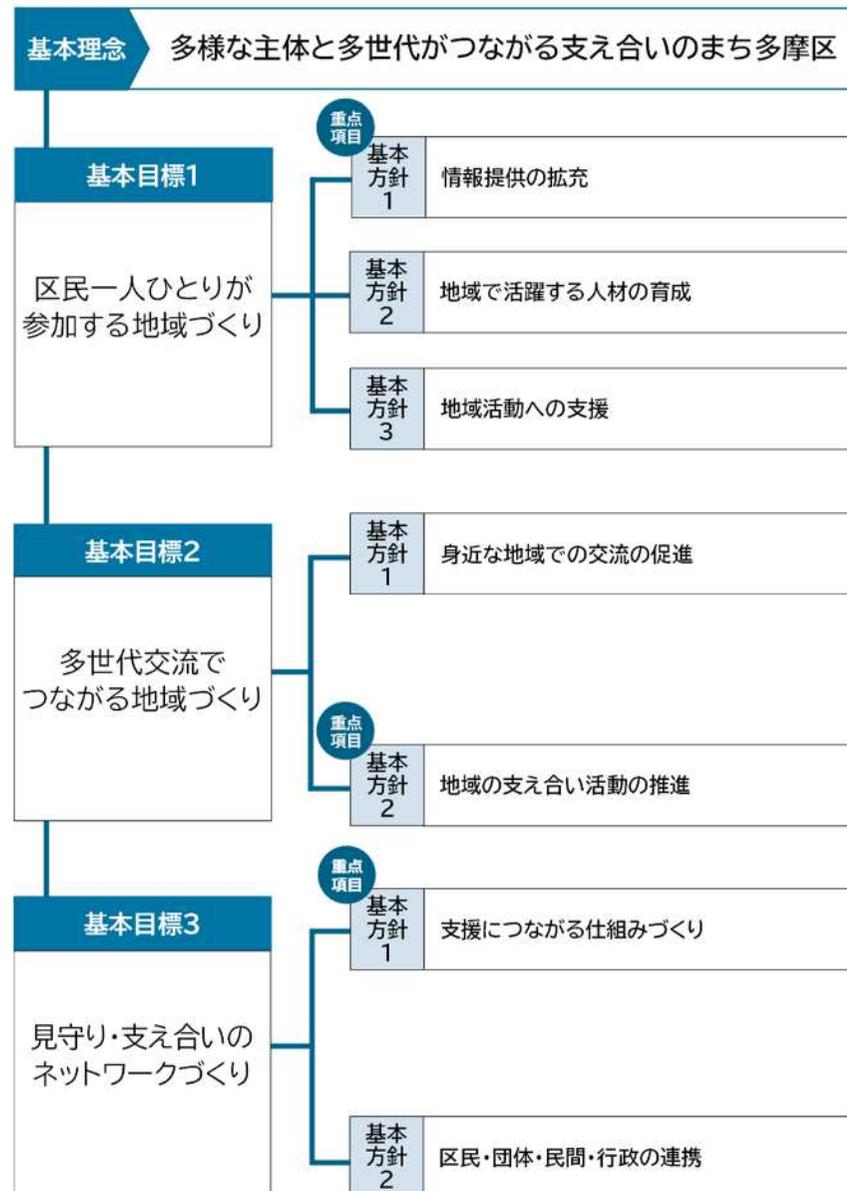
Q 自分ができることってどんなこと？



見守りや声かけ、手助けができるという声が多いね。

資料：両グラフともに、令和4年度地域福祉実態調査から多摩区分を抽出して作成

## その3 たまくの福祉を調べる（第6期多摩区地域福祉計画を振り返る）



### 基本目標1

## 区民一人ひとりが参加する 地域づくり

地域福祉や地域活動の取組等の情報をチラシやリーフレット、ガイドブックで周知するほか、区役所ホームページ・YouTube等を活用し積極的な情報発信を行いました。また、地域活動の新たな担い手の育成、住民主体で行われている地域活動への支援を行いました。

### 第7期計画に向けて

第6回川崎市地域福祉実態調査で「地域包括ケアシステムを聞いたことがない」が48.2%、地域活動において困っていることは「新たなスタッフ（担い手）が確保できない」が48.6%という結果がでています。



今後も区民が情報にアクセスしやすい環境づくりを推進する必要があります。また、依然として地域活動の担い手不足という課題もあることから、区民に地域活動により関心を持っていただき、参加する区民のすそ野を広げるため、より多くの区民に情報発信を行っていきます。

## その3 たまくの福祉を調べる（第6期多摩区地域福祉計画を振り返る）

### 基本目標2

#### 多世代交流でつながる地域づくり

住民同士が地域の中で出会い、あいさつし合えるようなゆるやかなつながりづくりをめざし、交流の場づくり等の取組を推進しました。

また、身近な地域での交流や支え合いの活動を住民や事業者、関係機関、団体とともに推進しました。

#### 第7期計画に向けて

第6回川崎市地域福祉実態調査（地域福祉活動に関する調査）で地域における問題について、「地域のつながりに関する問題（近所づきあい、対面での交流、人と人との関係が希薄など）」が60.0%という結果がでています。



地域の見守り・支え合い活動の推進として、地域で活動する多様な主体との協議会や交流会等の開催を引き続き実施していく必要があります。また、コロナ禍で停滞していた地域活動の再開支援や、コロナ対策として普及したICTの利活用が困難な高齢者等に対する支援も推進していきます。

### 基本目標3

#### 見守り・支え合いの ネットワークづくり

支援が必要な方や、自分から助けを求めることが難しい方に支援が届くよう、区民や民間事業者等と連携して、地域での見守り活動を推進しました。

また、区民・団体・民間・行政が一体となって協力・連携できるよう支援体制の充実を図りました。

#### 第7期計画に向けて

第6回川崎市地域福祉実態調査で日常生活が不自由になったとき手助けしてほしいことについて、「安否確認の見守り・声かけ」が41.6%という結果がでています。



多様化・複雑化する生活課題に対して、専門機関と連携して個別支援を行うとともに、地域住民、地域団体、事業者等の連携により効果的な見守り活動を実施していく必要があります。また、各種会議体で事業の進捗状況や多職種が様々な課題の共有を行い、顔の見える関係づくりに取り組み、引き続き、地域における支え合いのネットワークを強化していきます。